

新入園児の父兄に告ぐ

目白幼稚園 和田 實

六

幼稚園の教育は、學齡以前の教育でありますから、之を學齡以後の教育に較らざるは、色々の特異點を持つて居ります。そして、教育の終りが、小學校の教育に引き繼ぐのでありますから、或る意味では、小學校教育の準備のための教育であるに云ふことに間違はないのであります。従つて、子供を幼稚園にお入れになつた父兄の方々は、此幼稚園教育の特異點を小學校教育への眞の準備の意義を理解せられて、幼稚園と協力して、子供達の教育に萬々遺漏のない様になさることが必要な事だらうと思ひます。次に、之に關して、少しく述べて見たいと思ひます。

幼稚園教育の特異點

幼稚園教育が、小學校以後の諸教育と異なる主なる特異點は、先づ第一に學術を傳授することに、重きを置かぬに云ふことです。小學校が、日常生活に必須な知識や技能を教授し、啓發することを主なる仕事として居るに反して、幼稚園は悠々自適、急がず、焦らず、自由な遊樂を是れ事として、遊び暮らして居ます。誠に、呑氣なものです。此

呑氣さ、自由遊樂の自適生活に云ふものが、幼兒の生活に、極めて、大切な點で、幼兒は是れあるが爲めに、其個性の赴く儘に、發達することが出来るので、同時に強くなることも出来るので、若し、幼兒の生活から此呑氣さを奪ひ、其自由遊樂の生活を奪ひ去つたら、果して、其結果は如何なるでせう。私の知人に、幼兒に對して、非常に、嚴格に、躰けを仕様した人がありまして、子供の此自由行樂を許さず、大人と同様な生活様式を習慣づけ様とした人がありましたが、子供は遂に、父親の居る所、父親の知つて居る所では、非常に、慎み深く、羊の如く柔順に、大人の様に、しどやかに振舞つて居りますが、一度父親の姿の見えぬ所、父親の足音が門の外に消えたが最期、其性格は豹變して、祖父母や母親には手のつけ様の無い亂暴、狼籍を振舞ふ子供になりました。幸に、私共の注告を入れて父親が、躰けの方針を改變しましたので、今はすつかり直りましたが、一時は母親を泣かしたものでした。

斯様に、幼兒の生活に云ふものは、悠々自適生活を主

こして居るものでありますから、一寸考へるに教育なき出來さうもない様に見えますが、實際は決して、心配したものでなく、其模倣力を利用して、躑をしたり、其興味を誘導することに因つて、知らず識らずの中に、教育の目的に向つて、結構、之を感化誘導することが出来るものであります。要するに、子供の生活に云ふものは、悠々自適の遊樂で終始して居るものであります。そして、其教育は反省的、意識的に行ふことは出来ませんが、教育者の模範的德行に因つて、直接に感化し、誘導することの出来るものであります。従つて、父兄たるものは、子供を幼稚園に入れたからこゝで、日々何事かを覚えて来るだらう、讀み、書き、そろばんの一端を學んで来るだらうなきを考へてはなりません。幼稚園では唱歌も教へます、手工も行ひます。繪も書けば文字も覺えます。併し、學問や藝術を傳授する意味で、教へるのではないのです。只、遊樂の材料として教へるのですから、文字の書き方が少々間違つて居やうが、繪の描き方が下手であらうが、一向、かまはないので、誤りや上手下手は成る可く、子供自身が氣が付いて、自ら直して行く様に仕向けて行くのであります。

子供の發達は自身の力

教育の力に云ふものは萬能的なものではありません。生れ付のよくないものを、其生れ付以上の良いものに仕様こ

しても、出来るものではありません。それですから、良い生れ付の子供を得やうに云ふことは、世間の親に云ふ親が皆、望んで居るところではあります。是れには、優生學の原理に従つて、優生結婚をすることが、根本の問題であります。併し、是れは本文の問題外でありますから、私は茲に之を述べることは遠慮して、既に、生れ付いて居る子供を如何に教育す可きかを、我等の研究主題とするここに止めませう。

既に、生れ付いて居る以上、子供は生命の力を以て居ます。生命の力に云ふものは、活動の力であります。此活動の力は、一刻一秒も休止することはありません。消極的には生命を維持する活動になつて、飲食、消化、休養の働きとなりませんが、積極的には、遊戯、學習、作業等の活動になつて、盛んに、自己を表現して行きます。此自己を表現する力に云ふものは、非常に強いもので、時には、何物も之を抑壓することの出來ぬ位に、強く現はれ、時には、自分自身でさへ、抑へきれないに云ふ力強さを持つこともあります。併し、子供のまだ物心付かぬ中に、之を抑壓することに成功するに、弱い柔かいものにすることも出來ます。此生きる力を強めて行くか、弱めて行くか云ふことで、子供の發達、子供の生命の進展に、色々の差異が出て來ることにあります。若し、子供の生きる力を何處迄も伸

ばすこゝに因つて、其社會的活動を大に期待したいならば、之を保育するものは、其子供の自由な自己活動を抑壓したり、邪魔したり、干渉したりしてはならぬ筈であります。子供を伸々伸ばす云ふことは幼児保育の當面の理想としなければならぬ筈であります。然るに、世間の親達は、さもするさ、子供のすることに干渉して、然うしてはいけぬ、こゝしてはいけぬ。斯うするのだ、あゝするのだ、強制することに因つて、教育して行かうとして居ますが、こんなことで、子供の生命力を伸ばすことが、出来るものではありません。

人は子供に「學ばせる」勉強させる」云ふことで、偉いものに仕上げるこゝが出来ると、思つて居る人が多いですが、他から強制したからして生命の力が活動するものではなく、注入したからして、知識が活用出来るものではありません。子供の活きる力云ふものは、意志、欲望、さなつて現はれ、此意志欲望が、段々發展して行つて、色々の社會的活動なるものでありますから、此意志や欲望の進展、調制が教育上、大變大事なことになるのであります。是も、既に子供に一定の欲望なり、意志なりが決定してしまつてからは、如何に、他のものが騒いだこゝろで、何うにもなるものではありません。此意志欲望が、如何に調制され、如何に進展されて行くかは、生活環境の

力で、(勿論、教育の力も加はりますが)其他の何ものでもありません。教育者の力云ふものも、單に、環境の一勢力として有力なので、若し、教育者が、幼児の環境を調制することに盡力しないで、直接に、幼児に干渉することを以て、自己の教育力を現はさうしたら、夫れは當然、失敗することになるでせう。夫れですから、幼児を教育するには、教育者自身の計劃や、主義や、方法や干渉を直接、幼児に加へるこゝなしに、間接に、施設や、環境の上に加へて、幼児の生活を自然に變化させるこゝに因つて、之を引き廻はして行く様にしなければならぬのであります。孟母三遷の教は之を實際に證明して居る譯であります。要するに、子供は自分の力で、發展して行くので、決して、人の干渉や命令に因つて發達して行くものではありません。

子供の自我意識

「自分」云ふものが、何んなものか云ふことは、二二三歳の頃から、段々判つて來ますが、殊に、友達遊びをする様になるさ、一段急速に、發達して來ます。人間は孤獨生活の出來ないものですから、三四歳以後になるさ友達を求めて遊ぶには居られないものであります。友達さ遊ぶには、時には、友達さ衝突して争はなければならぬこゝもあらうし、時に譲らなければならぬこゝもありませう。此争つたり、妥協したり、共同したり、援け合つたりして

居る中に、子供は、自己の意志欲望が何んな形のものか、自分の力云ふものが、何の位の價値があるものか、云ふことが、はつきり判る様になります。同時に友達との社會に於て、自分の振舞へる範圍が何の位の廣さのものか、自分の勢力が、何の位の強さを持つものか云ふことも、判然と、意識することが出来る様になります。そして又、自分の活躍する領分は何處か云ふことも、將來、自分の進展して行く可き方面もおぼろげながらに意識することが出来る様になります。是等の發達は總括して、自我意識の發達云ふことが出来ます。此自我意識が發達することに因つて、人間の活きる力云ふものが、意義ある生活になつて、人世社會に具現されるものであります。而して、是等の自我意識の發達も、畢竟、幼児が日常の生活環境よりして、自然に、味得して行くもので、入れ智慧や、注告や、勸説や説諭などで、短時日で極まるものではありません。両親の指導を基礎とする家庭生活、長い間の友達生活、郷土の社會的影響等に因つて、自然々々に培はれて行くものであります。勿論指導者の指導精神云ふものが、間接には、大に影響はして行きますが、之が直接幼児に、影響して行くことはいないのであります。教育者の直接指導が直接に、効果を現はすのは被教育者がつま大きくなつて、知的作用が進歩して、指導精神其ものを、直接

に、理解することの出来る時にならねばならぬのであります。

併し又一方は此自我意識云ふものは餘りに反省的に發達して、自己の力の不甲斐なさを自覺したり、自分の能力の貧弱さを理解したりするに、自分で、自身の意志欲望を鈍らせて、卑屈な生活、卑下した生活の外、生活が出来なくなつて、自分で、自分を社會の落伍者にして仕舞ふ云ふことにならないも限りませんから、幼児の自我意識は餘りに發達し過ぎる様なことを無い様に、指導者は、注意して、之を間接に鼓舞獎勵することを忘れてはなりません。之が爲めには、幼児の成績云ふものは、何時も、是認し満足し賞美し、獎勵することが必要であります。妄りに、幼児の成績を批評したり、批判したりしてはならぬのであります。父兄たるものは、幼稚園から歸つて來た子供を捉へて、批判的に評價することのない様に、注意しなければなりません。人は自信あることに因つて、仕事が出来るのであります。幼児には己惚れが必要であります。之に強き意志、欲望が働くことに因つて、活氣ある活動が出来、全身全力を傾けて、活躍する様な飛躍的の仕事も出来るのであります。

多方の興味培養が目的

子供が學齡に達した際に、何の位の熱を以て、學習に從

事するか云ふことは、其子供の過去の経験に因つて培はれた興味^ミの程度^ミの廣さ^ミに因るものであります。強き興味があれば學習の熱は上ります。興味が多方にあれば學習も多方面に互るこゝが出来ます。多方の興味を持つて居るか居ないか云ふことは、學習の基礎が出来たか何うか云ふことになりまますから、小學校の準備教育としては是れ程、大切なことはありません。而して、多方の興味云ふものは、豊富な経験から來るものでありますから、子供には遊樂的に、多種多様な経験を與へるこゝが必要です。豊富な経験に因つて、多方面の事物に、悉く興味を持つこゝが出来れば、凡ゆる學習事項は熱を持つて迎へられ、熱を以て受取られることになりまます。此爲めには、子供の遊び云ふものは、其種類が偏らぬ様に、何でも、能く、遊ぶ云ふこゝが大切であります。是は、何も、保育者が心掛けずとも、子供は、自然に、然様になつて行くものですから、其自然の傾向に應じてやる用意があれば、よい譯であります。富裕な家の子供が偏食で困る様に、我まゝな子供は遊びにも好き嫌ひをします。友達にも愛憎の差別を付けます。是等は偏食の害ある様に、子供の經驗的發達に、大に偏傾を作るこゝになります。子供の經驗の偏らぬ様に、そして、成る可く多方面の興味を充分満足さす様にしてやらねば圓満な發達は望み悪いこゝになりませう。いたづら

な子供は器用なもので、何でも行きます、何をさせても、上手に行りますが、所謂、おきなしい、子供はいたづらをしてないだけだけ経験は少く、不器用であります。幼稚園が何くれもなく種々な細工や手すさびを獎勵するのは、此意味で、子供を器用にすると共に、其経験を豊富にし、其興味を進展させ様として居るのであります。

斯様にして、澤山な経験と興味があれば學習事項は易々記憶するこゝの出来る聯合基點を持つこゝになりませう。小學校に行つた時、先生の教ゆるこゝを、此聯合據點に聯關させるこゝに因つて、譯もなく覺えるこゝも出来、理解するこゝ、會得するこゝも出来るでせう。故に、多方豊富な経験を與へるこゝに因つて、多方の興味を培つて置くこゝいふこゝは學齡以前に於ける眞の準備教育であります。是が本當の、眞正の、入學準備云へるでせう。背囊を調へ、辯當箱、草履袋を用意するこゝも、入學準備には違ひありませんが、教育的に云ふ眞の入學準備といふものではありますまい。尤も、此外に大切な入學準備として、子供の健康の増進云ふこゝがありますが、是は自我意識の發達と共に發達して來るもので、子供が學齡に達する頃には、自然、充分學習に堪え得るこゝの健康を保ち得るものでありますし、事柄が生理衛生上のこゝで、お医者さんの領分に屬しますので、今茲には略するこゝにいたしま

せう。要するに、幼児教育に於ては、豊富な経験を與ふることに因つて多分の興味を培養し、多方の能力を練習し、幾多の聯合據點を造ることに、努力することが必要であります。幼稚園は此爲めに是非必要なものであります。

父兄は幼稚園に信頼せよ

大事な子寶を人に托するのですから、心配なのは無理もないことですが、然りて愚にもつかぬ取越苦勞をして、心ある人をして、眉を擡めしめるに云ふことは、感心したところではありません。幼稚園の先生は、先生としての相當の師範教育を受けた人であり、職業的良心も、人格も相當に發達して居る人であり、一視同仁に、幼兒を可愛がつて呉れることに間違はないのであります。然るに、之を疑つて、或は依怙の沙汰がありはしないか、或は不行届のこまがありはしないか、心配の餘り、幼兒の歸宅を待つて、色々聞き訂し、或は幼兒の片言を信じて、幼稚園に抗議するなき、色々事件を醸もし出すこまがあります。多くは杞憂に過ぎないものであります。尤も先生とて神様でない限り、注意の行き届かぬところが無いとも限りませんが、不審の點を尋ねるのは一向差支ないことで、尋ねて明かに判つたら、夫れで満足す可きで、何處迄も、光風齊月の想ひで幼稚園には對す可きであります。然るに、父兄に因つては却つて、先生の公明正大な取扱に

は不服で、特に、自分の家の子供だけ特別な優遇に預りたい希望する向きがあります。此差別待遇を要求する爲めに、特に幼稚園に、金品を寄贈したり、或は、先生に特別なサーピス又は贈與なごをして、只管、先生の歡心を得やうと努める人がありますが、甚だ迷惑な話であります。且又、斯様にして、自分の子供だけに、特別サーピスをして貰ふこまが、何れ丈け自分の子供を利するでせうか、是は子供の爲めに、一考を要することであり、幼稚園では凡ての子供が對等の位置に立つて交際す可きで、斯くするこまが各個の子供を一様に、訓練することが出来るので、自我意識は此對等關係に於いて生活する子供の間に切磋琢磨されて發達するので、決して、特別サーピスの子供の享有す可き利益ではないのであります。價值なくして好遇せらるゝこまは、結局其子供の切磋琢磨される機會を逸すること、根のない花、實質のない果實に過ぎないので、現在は何れにも仕合せの様ですが、頓がて、虚榮の夢が、覺めた時には、徒らに、自己の無價値に驚くこまになりませう。決して、其子を教育することにはならないのであります。可愛い子には旅をさせる可きで、子供を價值以上に好遇することは、決して教育の本道ではありません。

然のみならず、世間には随分判らずやこも云ふ可き人があつて、甚だしいのなるに、自己の社會的優位を利用し

て、先生を脅迫して迄も、自分の子供を、特に、注意させ様を試みるものがあります。嘗て、私の幼稚園にあつた事でしたが、子供が家庭で、釘に觸れて、かすり傷を負つたのを、大仰に繻帶して置いて、翌日、幼稚園へ云ひ掛りを云ひ立て、指の骨を折つて歸つて来た、幼稚園は、もつと、注意す可きだ云つて来たのがありました、斯る見え透いたトリック迄しても、自分の子供に差別優遇をして貰ひたいのが、世間の親の人情でも云ひませうか、然りこは浅果なこゝであります。是等は唯、人の物笑の種子さなるだけで、何等子供の爲めにはならぬこゝですから、注意しなければならぬこゝであります。

以上、色々なこゝを書きましたが、要するに、子供は、自己自身の生命力に因つて、其自我を確立し、發展させて、之を社會的に實現しやうとして居るもので、此子供自身の活動を助けて、完全なる自己發展の基礎を作らせ、將來の學習に對する眞の準備を用意させるこゝが、幼稚園の使命である云ふこゝを、世の父兄方に理解して置いて頂きたいと思ひます。

○
新らしく迎へた子さも達の名を讀むのも楽しいこゝの一つである。なんざいろ／＼のいゝ名がつけてあるこゝであらう。昭の字や和の字の多いのは、此の御代を壽ぐ心からであらうが、その後ろには、此の聖代に生れた我子の幸を祈る心も籠めてあらう。榮子よ榮へあれ、博子よ心博かれ、智子よ賢かれ、みんな親心の有り難さが響きこぼれる。鶴子の齡久しく目出度き、ちぎりのやさしく可愛らしき、道子の眞直ぐに正しき。さては男の子の和徳、壽夫、義男、有文、康博、あのまんまらい、にこ／＼とした顔には、少々不似合なやうな嚴かさであり、むづかしい字でもあるが、そこに、思ひ籠めし親心こそ有り難い。なかには父の名を分け、又、先祖代々の名を分けたのも少くあるまい。斯うして名を讀んで見ただけでも、一人だつて、輕々しく名をつけられてゐるやうな子はない。その子の誕生の日の家の喜び、その名の選び方に頭をひねつた父の顔、その相談の座の楽しい眞面目さ。——一人だつて、うっかり迎へていゝお子さんはない。さへば先生御自身の名だつて容易のものではない。(章象)